

⑰ 梅ヶ瀬溪谷から大福山 自然豊かな溪流と房総を代表するスダジイの極相林

【概要】 養老川の源流のひとつである梅ヶ瀬溪谷は、自然豊かな溪流であり、自然環境保全地域に指定されている。また、大福山白鳥神社の社叢は、スダジイを主体とする照葉樹林であり、県の天然記念物にも指定されている。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

房総丘陵のほぼ中央、南北に長い市原市の南西部、君津市との境に位置している大福山（285m）は一名兜山と呼ばれ、山頂には、日本武尊ゆかりの白鳥神社があり、その社叢として大切に保護されてきた。特に南斜面は、極相的な照葉樹林を残すところとして、県の天然記念物（昭和 47 年 1972 年）に指定されており、さらに大福をふくむ北部一帯が、県の大福山北部自然環境保全地域（103.86ha 平成 10 年 1998 年）にも指定された。

南斜面は、スダジイ林を主体とする照葉樹林で、他に高木層としてはアカガシ・タブノキ、亜高木層・低木層にはモチノキ・ヤブツバキ・カクレミノ・ヒサカキ等が混じっており、構成種はほとんどが常緑広葉樹（照葉樹）である。しかし、北斜面・東斜面は、スダジイが優占しながら、コナラ・イヌシデ・イロハカエデなどの落葉広葉樹が、多く混じっていることが特徴的である。このスダジイには、胸高直径が、70～90cm、樹高 17m という巨木が数本あり、樹齢は、400 年以上と推定されている。

スダジイやタブノキの葉は、コナラやサクラの落葉樹にくらべると厚く、硬くて光沢があり、照葉樹の名はここからきている。いつも葉をつけている常緑樹ですが、毎年 4～5 月には、新しい葉を出し古い葉と入れ替わっており、春が落葉・新緑の季節であり、常緑樹の森が、最も華やかに見える季節です。

梅ヶ瀬溪谷は、養老川の支流の梅ヶ瀬川が、丘陵（梅ヶ瀬層）を侵食してできた溪谷で、溪流が高さ 30～50m もある侵食崖を形成している。古くからこの地域は、人の手が入り、かつて薪炭林として利用されていたコナラ等を主体とする落葉広葉樹のほか、かつてのスギ・ヒノキの植林地、カシ類の混じった混交林。崖地の上部には、イロハカエデやウリカエデなどが多く見られる。

確認されている。春の新緑・秋の紅葉の美しさが有名で、その季節は、多くの観光客が訪れる。

梅ヶ瀬層については、地層の傾きによる、北向きの崖と南向きの崖の植生の違い、砂層と粘土層の植物の生え方の違いなどが、観察のポイントになる。

タゴガエル・モリアオガエル・カジカガエルなどの両生類、鳥類も数が多い。人との関わりによる「川廻し」・「二五穴」の跡なども興味深い。

【コース紹介】 小湊鉄道の養老溪谷駅①から黒川沼を経て梅ヶ瀬溪谷に向かう。女ヶ倉林道の分岐②を左に入り溪流に沿って進む。日高邸跡への分岐③を左に進む。右へ行くと大福山。養老溪谷駅から梅ヶ瀬溪谷最奥の日高邸跡④まで 2.8km。日高邸手前の分岐まで引き返し、もみじ谷を登り、尾根ルートを進み、大福山（白鳥神社）⑤に至る。帰路は、女ヶ倉林道を下り、女ヶ倉林道・梅ヶ瀬溪谷の分岐②に至る周回コース。

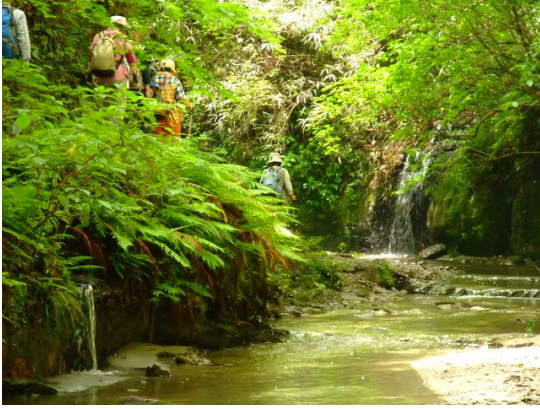
コースで見られる主な植物等

【木本類】

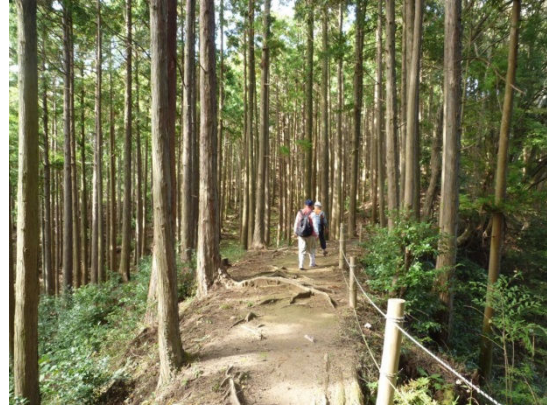
スダジイ、アカガシ、スギ、ヒノキ、イロハモミジ、オオモミジ、ウリカエデ、コナラ、イヌシデ、モチノキ、サカキ、ヤブツバキ、カクレミノほか

【草本類・シダ類】

アズマヤマアザミ、シラネセンキュウ、コウヤボウキ、イズノシマダイモンジソウ、シラン、サラシナショウマ、キッコウハグマ、ツルアリドオシほか



① 梅ヶ瀬溪谷 溪流の道



⑤ 大福山 尾根ルート



② 梅ヶ瀬層 砂泥互層 (南向き)



⑥ 大福山 照葉辞林 スダジイ林



③ 梅ヶ瀬層 砂泥互層 (北向き)



⑦ 大福山 白鳥神社



④ 日高邸跡 イロハモミジの大木



⑧ 白鳥神社 鳥居